



“人間は素晴らしい”

理事長 高杉 洋史

玄海ゆりの樹幼稚園の子育てラウンジの入り口に数冊の本を飾っているのですが、長らく読もう読もうと思いつながら、積読(つんどく)状態でした。その中に「虚数の情緒」という一冊があります。千ページを超す大冊で、タイトルからもわかるように数学本と予想がつきます。お正月休みにとうとう手を付けました。68ページを読んでいるところですが、なんと、まだ数学の話どころか、虚数という単語すら出てきません。これまでの話はなんと、勉強することとはなぜ大切なのかということ、そして地球と人類の歴史がこんこんと語られています。前書きを読んでわかったのですが、この本は中学生が独学するために書かれた本なのです。難しい漢字には読み仮名がふってあり、この本を読むのに必要なものは根性だけというくらい懇切丁寧な書き方です。そして私にとつては、教育とは何か、教育者とはどうあるべきかを再考するように促された本でした。気合の入った巻頭言の書き出しを引用します。

「さあ諸君、勉強を始めよう勉強を。数学に限らず、凡そ勉強なんてものは、なんだつてつらくて厳しい修行である。しかし、それを楽しみ越えた時、自分でも驚くほどの充実感と、学問そのもののへの興味が沸き起こってくる。昔から、楽しんで得られるものなんて、つまらないものに決まっている。怠けを誘う甘い言葉は、諸君に一人前になつてもらいたくないという嫉妬である。思い切り苦労して、一所懸命努力して、素晴らしいものを身に着けようではないか。」

自分の腑抜けた精神が恥ずかしくなる言葉です。世の中には気合の入った教育者がいるものです。

もう一冊は神谷美恵子著「ころの旅」です。1982年発行の古い本が大掃除とともに出てきました。生物学や生理学をはじめ新しい知見からすると抵抗のある記述もありますが、35年間の進歩を感じ取れます。それ以上に幅広い知見と人に対する温かい記述、特に幼児の発達に対する視点は昨今の待機児童問題に振り回されている幼児教育の世界がいかに子どものことを忘れた、大人の都合でなされていることが反省させられ、地に足の着いた幼児教育をするのだよと励まされている心境です。

自分の知らない素晴らしい人たちが綺羅星のごとく存在することを思い出させてもらいました。



「感謝の心」～ありがとうを大切に～

園長 高杉美稚子

あけましておめでとうございます。新しい開かれた世界に向かって、保護者の皆様、園児、先生、先生達と心をつなげて歩いていきたいと思ひます。平成30年、節目の年、大きく変化する年ですね。変化に対応できる自分自身でありたいと思ひます。園児達の幸せの為に協力宜しくお祈ひします。冬休みの間、10年前の新年の誓いを思い出しました。

「相手を信じ、自分を信じ、その場に「身をまかせる」こと。

このことを実現するためには「心と体が健康である」こと
 そのために大切なことは 自分の感情に気づき、
 その感情を受け止めること、自分に正直で率直であること
 勝ち負けにこだわり無理をしないこと、
 見返いを求めない無償の愛を与えること



大樹は根を張りながら上に伸びていく。人間がそのような自然な成長をするということは、その時々課題を解決しながら成長すること。その時々課題を解決することで根が生えていきます。

人間を樹にたとえれば、根の部分が心理的成長で、土の上に見えている幹の部分が社会的成長。樹は根がないと風が吹くと倒れてしまいます。人と人でいえばコミュニケーションをする、心が触れ合うこと。

その上に自己実現してアイデンティティの確立があり、現実の自分を受け入れ、責任能力が身につきます。だから、人に迎合したり、攻撃したり、引きこもることなく、自分の内面と正直に向き合い、孤独を恐れず、自分の判断で行動し、その結果に責任を負える人間でありたい」と書いています。

今一度、この言葉をかみしめ、そしてこの実現の為に何が一番大切なだろうと考え直しました。幼児教育では使い古されている言葉ですが「**ほめて、認めて、励まして、受け止める**」がやはり大切ですね。私の幸せは何か問うことが何度もあります。それは「**園児が、保護者の方が、先生達が幸せと感じ、ゆりの樹幼稚園と出会ってよかったと感じていただくこと**」です。

その為に必要なことは、いつもお伝えしていることですが、
「どんな人の行動にも肯定的意図がある、だからその本来の意図に気づき、その人のいいところに焦点を当てて、いつも笑顔で、ほめて、認めて、励まして、受け止める」からもう一度始めようと思ひます。
 これは、時に、場合に、相手、タイミング、場所によって難しいですね。
 そして、それを簡単にする唯一の方法は、「**感謝の心**」だと感じています。
 どんな言葉より「**ありがとう**」が一番心に響く言葉だと、今、本当に思ひます。
 すべての人に、起こるすべてのことに、感謝して生きていこう・・・そう思ひます。

●感謝3段階●

- 初級：滅多にないくらい稀で嬉しいこと、ありがたいことに「**ありがとう**」と感謝すること
- 中級：ごく当たり前のことに、自然に心から「**ありがとう**」と感謝すること
- 上級：一般的に言う都合の悪いこと、大変なことにも「**ありがとう**」と感謝すること



当たり前と思っていることを「そうでもない。恵まれているのだ」「かけがえのないことなのだ」「何かの恩恵によって与えられているのだ」「限られていることなのだ（時間的・数量的・巡り合わせなど）」ということを感じる（わかる・気づく）と中級に移行しやすそうです。

「自分の力で生きているのだ」と思うと「当たり前」になり、「何ものかによって生かされている」と思うとありがたいことになります。あるいは自分や周りの人が、身の危険・大病などに遭うと、それからの人生が「ありがたい」「与えられた」「余禄」の人生となり、生き方が変わってくるのかもしれない。

都合の悪いことが実は自分自身にとってとても必要なことだったとある日わかることがあります。すると、それらのことにも自然に感謝ができるようになり、それを重ねていくと上級になることが可能かもしれません。

今年はすべての人の行動、言動に肯定的意図があることを信じて、「**ありがとう**」から始め、終わりたいと思ひます。今年もありがとうございます。そして宜しくお祈ひいたします。